

第2回検討委員会資料からの主な変更点

「(2) 全国エコロジカル・ネットワークの現況及び将来について」関係

・「資料 2-3 指標種の観点からの重要地域等 (案)」について、指標種にスナメリ、ザトウクジラ(ともに海棲哺乳類)を追加。

・「資料 2-3 指標種の観点からの重要地域等 (案)」について、指標種の観点からの重要地域等(案)の図に、海底地形を追加。(資料 2-6 中の現況図(案)、資料 2-7 中の将来図(案)、また、「参考資料 1」中のウミガメ類、海棲哺乳類、海鳥関係の各図も同じ)

・「資料 2-5 生態系の多様性の観点からの重要地域 (案)」について、自然海岸を「砂浜海岸」と「泥浜海岸・磯浜海岸・海食崖等」に分けて表示。

・「資料 2-6 生きものの視点からの全国エコロジカル・ネットワークの現況図 (案)」について、本構想における全国レベルのエコロジカル・ネットワークのコアエリア、バッファゾーン、コリドーの定義を整理。指標種等の観点から抽出された各重要地域等のコアエリア、バッファゾーン等への位置づけを表 1 に整理。

・「資料 2-6 生きものの視点からの全国エコロジカル・ネットワークの現況図 (案)」について、「図 2 生きものの視点からの全国エコ・ネット現況図の模式図」を修正。

・「資料 2-7 生きものの視点からの全国エコロジカル・ネットワークの将来図 (案)」について、本構想は全国レベルのおおよその方向性を示すものであり、広域圏、都道府県、市町村等のスケールで掘り下げて検討した場合、各地域の自然条件・社会条件に応じて、異なる方向性が結論されることがあり得ることを、冒頭部分で説明。

・「資料 2-7 生きものの視点からの全国エコロジカル・ネットワークの将来図 (案)」について、以下のように修正。

奥山自然地域

・イヌワシとクマタカについて「①全国レベルのエコロジカル・ネットワーク形成の観点からの現状の課題」を修正。「③地域の望ましいイメージ」について、イヌワシとクマタカを分け、両者の生態の違いを踏まえ、また地域の自然的社会的条件も含めた将来展望等へと修正。

里地里山・田園地域

・「③望ましい地域のイメージ」に、広葉樹林化などによる多様な森林づくりが進み、生息環境が改善されること等により、「鳥獣被害が減少している」イメージを追記。

河川・湿原地域

・「②将来図の図化方法」について、「コリドー(移動・分散経路)回復」を、タンチョウについては本州へ、ナベヅル、マナヅルについては首都圏へと延伸。「③望ましい地域のイメージ」においても、タンチョウについては本州で、ナベヅル、マナヅルについては首都圏でも群が見られるイメージを追記。

沿岸・島嶼・海洋地域

- ・海棲哺乳類の指標種にスナメリ、ザトウクジラを追加したことを受け(「参考資料 1・⑥ 海棲哺乳類を指標種とした重要地域(沿岸・海洋・島嶼地域) (案)」)、スナメリ、ザトウクジラに関する「①全国レベルのエコロジカル・ネットワーク形成の観点からの現状の課題」、「②将来図の図化の方法」を追加。「③望ましいイメージ」にも記述を追加。
- ・「③望ましい地域のイメージ」について、島嶼地域で外来種対策が進んでいるイメージを追記。

「(3) 全国レベルのエコロジカル・ネットワークの実現に資すると考えられる主な施策」

関係

- ・「資料 3-1 全国レベルのエコロジカル・ネットワークの実現に資すると考えられる主な施策」について、海洋基本計画、ラムサール条約決議、社会資本整備重点計画(案)、自然公園法及び自然環境保全法の一部を改正する法律案をもとに施策を追加。環境教育に関する施策を第3次生物多様性国家戦略から追加。
- ・「1. 国土空間的施策」「2. 横断的基盤的施策」の前に「まえがき」を作成、挿入。「3. 多様な主体の参画・連携の必要性」を追記。

参考資料 1 指標種の観点からの重要地域等の抽出の詳細(案)

- ・「④ ウミガメ類を指標種とした重要地域(沿岸・海洋・島嶼地域) (案)」と「⑤シギ・チドリ類を指標種とした重要地域(河川・湿原地域、沿岸・海洋・島嶼地域) (案)」の順を入れ替え。
- ・「④ シギ・チドリ類を指標種とした重要地域(河川・湿原地域、沿岸・海洋・島嶼地域) (案)」において重要地域としたなモニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査サイト(干潟調査サイト)を平成 20 年度終了時点のデータと差し替え。
- ・「⑥ 海棲哺乳類を指標種とした重要地域(沿岸・海洋・島嶼地域) (案)」について指標種に、スナメリ、ザトウクジラ(ともに海棲哺乳類)を追加。